

平成26年中の火災概況

和歌山市消防局

(1) 火災件数について

本市における平成26年中の火災件数は111件で、前年と比べ3件減少しました。

(2) 損害額について

損害額は1億4,452万円で、前年と比べ8,483万円減少しました。

(3) 死者について

死者は4人で、前年と比べ3人増加しました。

死者の発生した火災の種別は、いずれも建物火災でした。

(4) 出火原因について

火災の発生を原因別にみると、「放火」25件（放火の疑いを含む。）が最も多く、次いで、「たばこ」14件、「電灯・電話等の配線」8件、「こんろ」7件（うち天ぷら油4件、グリル1件）の順でした。

(5) 住宅用火災警報器について

住宅火災（併用住宅、共同住宅を含む。）は41件で、そのうち住宅用火災警報器の設置が確認できた件数は12件でした。

また、住宅用火災警報器を設置していたことで大きな火災にならなかった奏功事例が5件ありました。

平成26年 火災発生概況

区分		年別		平成26年		平成25年		増減	
火災件数				111件(0)		114件(0)		-3件(±0)	
損害額				144,523千円		229,350千円		-84,827千円	
火災種別	建物			73件(0)		68件(0)		+5件(±0)	
	林野			0件(0)		0件(0)		±0件(±0)	
	車両	自動車	12件(0)	12件(0)		12件(0)	12件(0)		±0件(±0)
		鉄道		0件(0)			0件(0)		
	船舶			1件(0)		1件(0)		±0件(±0)	
	航空機			0件(0)		0件(0)		±0件(±0)	
	その他の			25件(0)		33件(0)		-8件(±0)	
焼損棟数	合計			104棟		100棟		+4棟	
	全焼			18棟		17棟		+1棟	
	半焼			11棟		7棟		+4棟	
	部分焼			31棟		27棟		+4棟	
ぼや			44棟		49棟		-5棟		
建物焼損床面積				1,888㎡		3,027㎡		-1,139㎡	
建物焼損表面積				239㎡		257㎡		-18㎡	
林野焼損面積				0a		0a		±0a	
人的被害	死者			4人		1人		+3人	
	負傷者			29人		16人		+13人	
り災世帯数	合計			65世帯		65世帯		±0世帯	
	全損			17世帯		19世帯		-2世帯	
	半損			3世帯		3世帯		±0世帯	
小損			45世帯		43世帯		+2世帯		
り災人員				144人		166人		-22人	
1日平均	出火件数			0.30件		0.31件		-0.01件	
	損害額			396千円		628千円		-232千円	
建物焼損床面積				5.2㎡		8.3㎡		-3.1㎡	
火災1件当たり平均損害額				1,302千円		2,012千円		-710千円	
建物火災1件当たり焼損床面積				26㎡		45㎡		-19㎡	
出火率(人口1万人当たり)				3.05件		3.11件		-0.06件	

※ ()内は爆発件数

原因別火災発生状況

原因別	月別	合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
合計		111	12	10	13	13	11	3	7	9	10	8	8	7
たばこ		14	1	3	1	2			1		3	1		2
こんろ		7		1			1	2	1				1	1
こんろのうち天ぷら		4						2	1					1
こんろのうちグリル		1											1	
かまど		0												
風呂かまど		1		1										
炉		1											1	
焼却炉		2				1	1							
ストーブ		6	5				1							
こたつ		0												
ボイラー		0												
煙突・煙道		1												1
排気管		2				1			1					
電気機器		1								1				
電気装置		2							2					
電灯・電話等の配線		8		2	1					1	2		2	
内燃機関		0												
配線器具		5	1	2		1								1
火あそび		3			1	1	1							
マッチ・ライター		1			1									
たき火		4			1	1	1					1		
溶接機・切断機		1					1							
灯		3								2				1
衝突の火花		1			1									
取灰		0												
火入れ		0												
放火		24	3			4	4	1	1	2	1	4	4	
放火の疑い		1			1									
その他		14	1		4	1	1			3	2	2		
不明・調査中		9	1	1	2	1			1		2			1

被災住宅における住宅用火災警報器等設置状況

状況 用途別	設置あり		設置無し	設置不明	
	作動有り	作動無し			
住宅	8	4	4	15	2
併用住宅	0			2	
共同住宅	4	2	2	3	

※消防法第17条による自動火災報知設備やスプリンクラー設備を設置する場合を除く

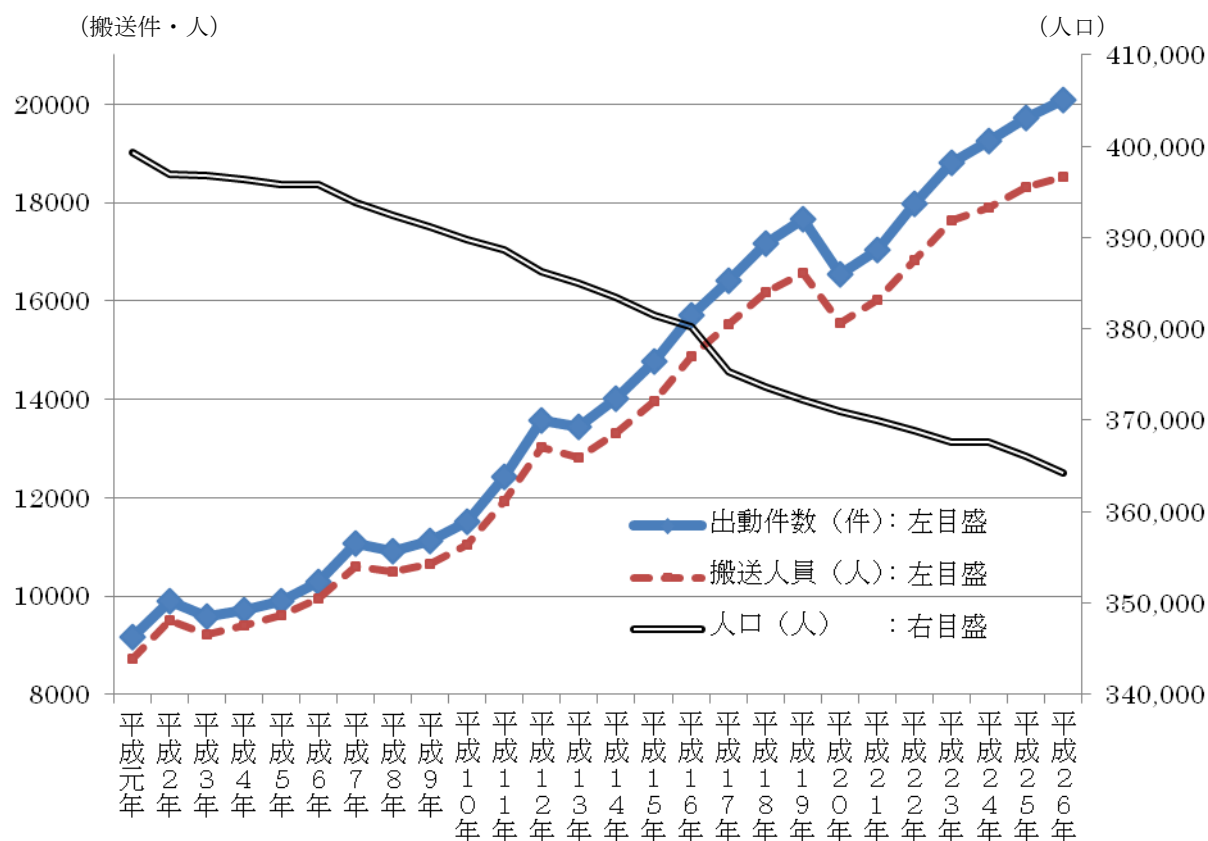
救急出動概況

1 救急出動件数 20,000 件突破、搬送人員も過去最高

平成26年中の和歌山市の救急出動件数は、前年（平成25年）に比べ367件増の20,091件、また、搬送人員も前年に比べ211人増の18,518人でした。

この平成26年中の救急出動件数は、6年連続の増加で、はじめて2万件を突破し過去最高の出動件数となりました。

1日平均55件の救急出動で、和歌山市民18人に一人が搬送されたこととなります。



人口は、和歌山市のホームページから

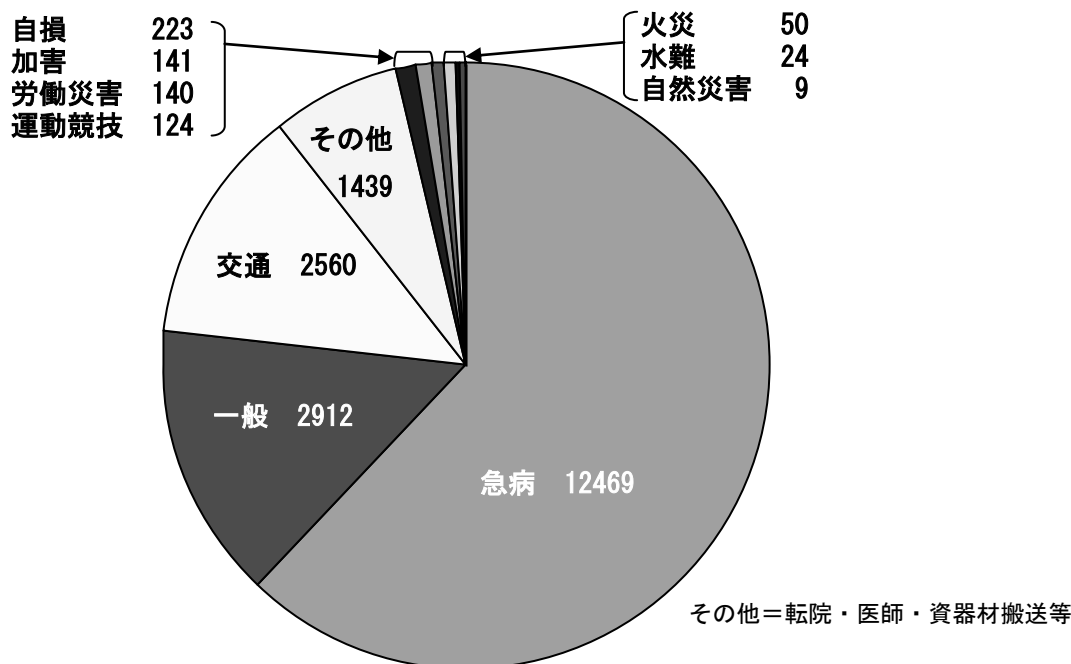
年別	出動件数	搬送人員	年別	出動件数	搬送人員
平成元年	9,173	8,726	平成14年	14,010	13,322
平成2年	9,890	9,514	平成15年	14,767	13,963
平成3年	9,596	9,214	平成16年	15,695	14,863
平成4年	9,705	9,407	平成17年	16,413	15,536
平成5年	9,891	9,614	平成18年	17,159	16,182
平成6年	10,292	9,949	平成19年	17,662	16,574
平成7年	11,066	10,600	平成20年	16,539	15,563
平成8年	10,904	10,503	平成21年	17,029	16,016
平成9年	11,126	10,653	平成22年	17,962	16,834
平成10年	11,509	11,049	平成23年	18,814	17,631
平成11年	12,427	11,931	平成24年	19,260	17,888
平成12年	13,563	13,011	平成25年	19,724	18,307
平成13年	13,436	12,827	平成26年	20,091	18,518

2 事故別出動件数及び傷病者の年齢

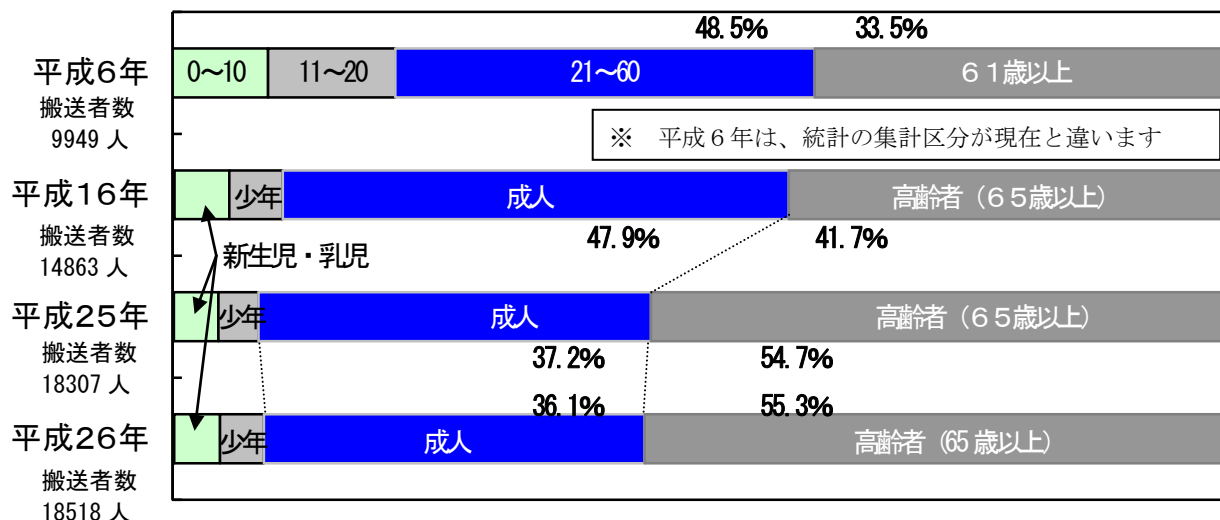
救急出動全体の62%が「急病」での出動となっており、続いて「一般負傷」「交通事故」の順となり救急出動の約90%を占めています。

昭和38年（1963年）に救急業務が法制化された後、一昨年初めて、和歌山市において「一般負傷」の出動が「交通事故」の出動を上回りましたが、昨年も同様でした。このことは、当市だけではなく、全国的な傾向となっています。

また、搬送者を年齢区分で分けてみると65歳以上の高齢者の割合が、55.3%と半数以上を占めています。



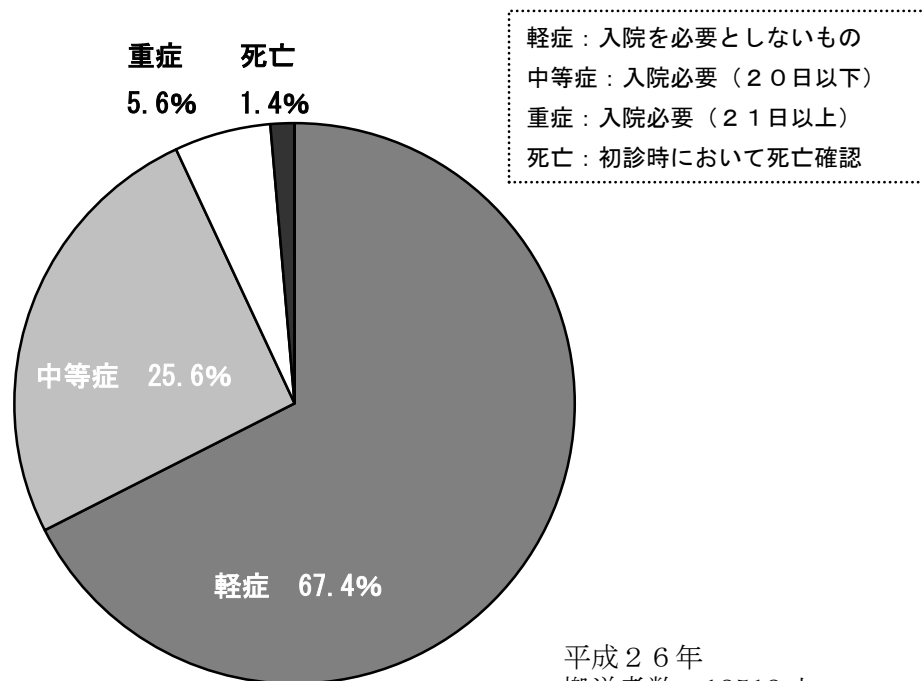
平成26年 事故別出動件数



年齢別傷病者の割合（前年・10・20年前比較）

3 傷病者の状況

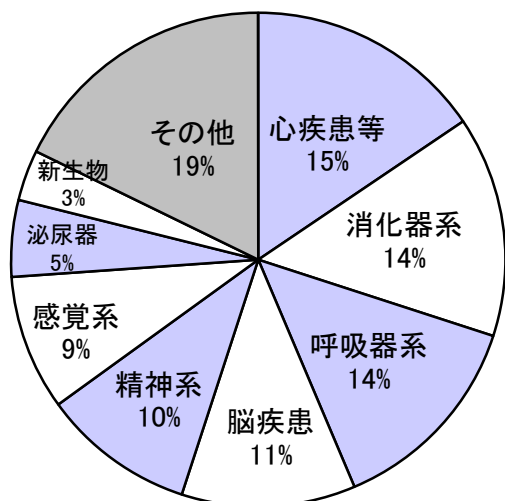
搬送した傷病者を程度別に分類すると軽症者が、全体の67.4%を占めています。



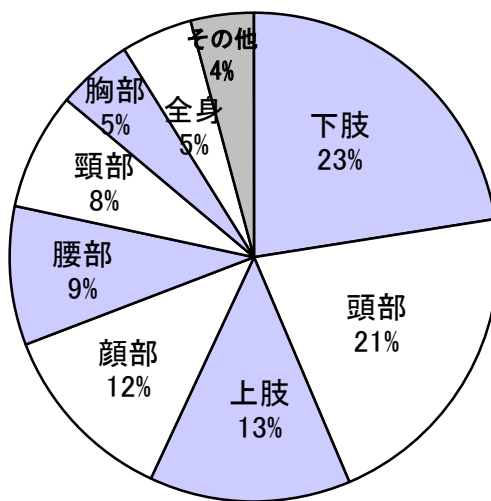
平成26年
搬送者数 18518人

傷病者の程度別分類割合

搬送した傷病者の傷病名を疾患（急病等）、外傷（交通事故等のケガ）別に分けると疾患別では、心疾患、消化器系疾患・呼吸器疾患、脳疾患の順となっており、一方、負傷した部位別では、下肢、頭部、上肢、顔部の順となっています。（疾患別では、症状や徴候等診断名不明確を除いています。）



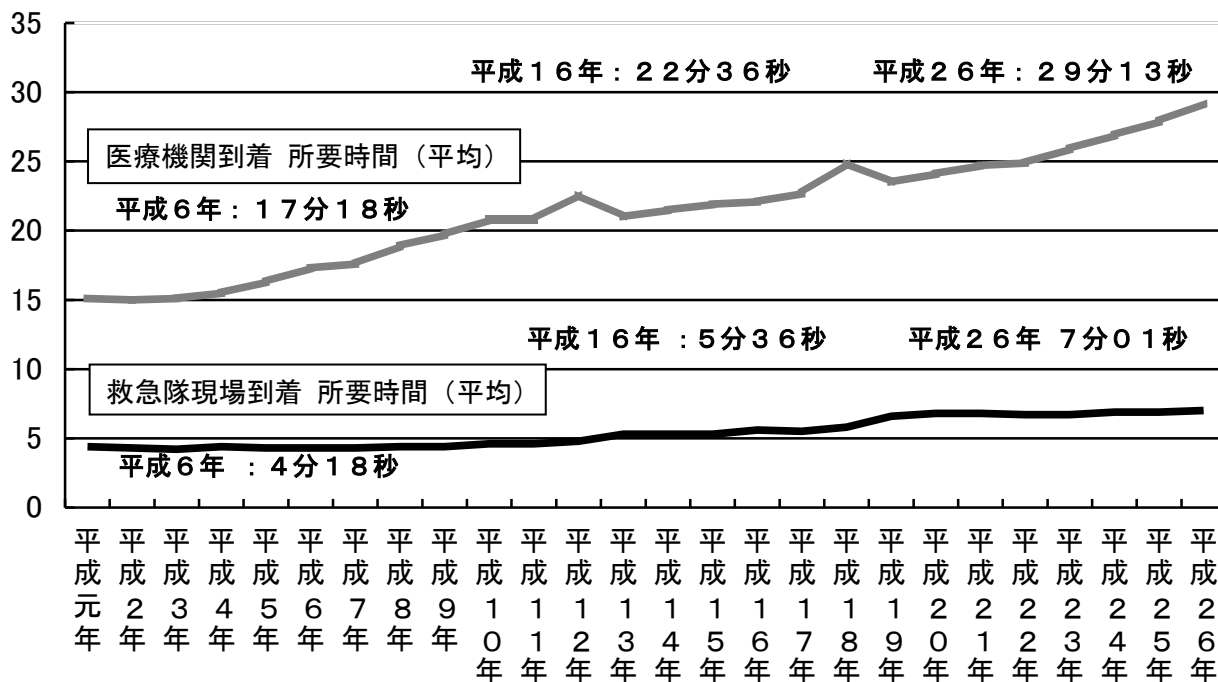
疾患別割合



負傷部位別割合

4 救急隊の現場到着時間及び医療機関収容時間

平成26年中の平均救急隊現場到着時間は、7分01秒と昨年と比べ7秒遅くなっています。また、平均医療機関収容時間が、昨年より1分19秒遅れ29分13秒となっています。なお、10年前（平成16年）と比べると、救急隊現場到着平均時間は、1分25秒、平均医療機関収容時間は、6分37秒遅くなっています。



5 医療機関の受入れ状況

一人の傷病者に対して、搬送医療機関を問い合わせ（交渉）する回数の平成26年中の平均は、1.27回となっています。この数字だけをみると直ぐに搬送医療機関が決定しているように思いますが、次のように事例により11回も問い合わせを行うこともあり、前掲4にあるように医療機関到着時間の遅延の原因と思われます。年々受入困難事例が多くなってきていますが、重症以上に限ると1.10回と比較的スムーズな受け入れとなっています。

問合回数 程 度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計
軽 症	9989	1538	576	233	88	39	5	3	2	2	1	12476
中等症	4172	360	123	58	12	6	3					4734
重 症	950	65	15	2	1				1			1034
死 亡	251	10		1								262
その他	10	1				1						12
計	15372	1974	714	294	101	46	8	3	3	2	1	18518

6 救急隊の処置

病院前救護をより一層強化し、救命率の向上や後遺症の軽減を図ることを目的に、救急救命士の処置範囲が拡大され、

心肺停止前の重度傷病者に対する

- ①血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与
- ②静脈路確保と輸液

の2項目について、当局では、平成26年8月1日から運用を開始しました。

上記①の血糖測定は44件、低血糖の方へのブドウ糖を投与は4件で、上記②の静脈路確保と輸液は、7件でした。ブドウ糖を投与した4件のうち3件で意識状態の改善がみられ、また、いわゆるショック状態の方への静脈路確保と輸液は、7件のうち3件で、血圧の上昇がみられました。

今後も適応症例で、確実な処置ができるように日頃からの訓練を強化する必要があります。

7 普及講習

平成26年に実施した普及講習は、306回で受講者数は、9,678人でした。

このうち、救命講習（3時間以上の講習）受講者は、3,628人でした。当市では、平成8年から開始した救命講習の延べ受講者は、約51,000人にも及び和歌山市民7人に一人の割合で受講したことになります。

また、応急手当普及員講習・再講習は、4回106人の受講者でした。

8 救命率

平成26年に心肺停止の状態で搬送した傷病者は411人で、心肺停止の原因が、心原性（心臓に原因がある）の方は202人、このうち、市民（家族・同僚等）の目撃（倒れるのを見た、音がしたので振り返ったら倒れていた等）がある方は52人でした。

さらに、この52人のうち、市民が応急手当を実施した方の社会復帰（倒れる前の状態に復帰）は3人で、社会復帰率にすると12%で、全国平均（10.7%：平成25年）より高くなっています。

9 救急ワークステーション

平成26年6月から、日本赤十字社和歌山医療センター高度救命救急センターの協力を得て、救急ワークステーションの運用を開始しました。

ドクターカー運用については、平日・日勤帯（9時から17時30分）での、派遣型・ピックアップ型の運用でしたが、合計96件の出動がありました。96件の内訳は、急病76件、交通7件、労働災害6件、一般負傷5件、自損1、その他1となっています。

また、ドクターカーとして活動したのは69件でした。活動した救急現場から搬送された7

0人の傷病者のうち、重症以上は27人、中等症21人、軽症22人でした。（現場活動のみ
の場合や同時に複数人搬送を行った場合もあります。）

入電（119番通報）段階で、通常救急隊とともにドクターカーを出動させることを容易に
するため、ある言葉に合致した場合に出動させる方法（キーワード方式）で実施していますが、
このキーワードについても、今後修正していく必要があります。

<平成26年ドクターカー出動・要請基準>

- 1 40歳以上でおおむね10分以上続く胸痛・背部痛の場合
- 2 重度の呼吸不全・循環不全を疑う場合
- 3 多数傷病者の発生を疑う場合
- 4 重症外傷を疑う場合
- 5 指令課員が、切迫した通報と判断した場合
- 6 現場へ到着した救急救命士がドクターカーが必要と判断した場合

平成26年中の救助出動の概要

(1) 救助出動件数について

本市における平成26年中の救助出動件数は401件で、前年と比べ15件増加しました。

事故種別ごとにみると、火災が66件、火災以外の出動は335件でした。
また、市域外にも2件出動しました。

(2) 救助人員について

救助人員は175人で、前年と比べ14人減少しました。

事故種別ごとにみると、火災が15人、火災以外の救助人員は160人でした。

事故別救助活動状況

事故種別	火災	交通	水難	自然	機械	建物等	ガス及び酸欠	破裂	その他	合計
救助出動件数	66	100	19	0	9	63	6	0	138	401
救助活動件数	15	53	13	0	7	53	6	0	24	171
救助人員	15	63	11	0	7	53	6	0	20	175
出動人員	336	1,226	355	0	110	740	88	0	1,287	4,142
出動車両台数	126	302	100	0	27	186	22	0	278	1,041

救助出動状況

年別	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
救助出動件数(※1)	314(216)	354(280)	377(318)	386(319)	401(335)
救助人員(※2)	156(153)	153(144)	176(169)	189(182)	175(160)

※1()内は、火災以外の救助出動件数

※2()内は、火災以外の救助人員数